

徳島赤十字病院臨床研修プログラム：産婦人科

コース責任者：田中 優

研修期間：必修科（産婦人科）として4週間
選択科として4週間から

I：一般目標 (GIO:General Instructional Objective)

患者が女性であることを十分に理解し、診察や治療にあたっては特別な配慮が必要であることを十分に理解することが第一の目標である。また守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができること。

妊娠初期は、妊娠の成立および正常妊娠と異常妊娠の鑑別診断が行え、妊娠中期から妊娠末期にかけては、母体の変化や胎児の成長過程を理解する。また分娩の開始とその経過を十分に理解し、正常分娩や異常分娩への対応を習得する。

婦人科疾患では、頻度の多い子宮筋腫や子宮内膜症、卵巣嚢腫などの良性疾患の症状、診察方法や診断手順と治療についての知識や技術を習得する。悪性腫瘍については、患者への配慮を考えた病状説明の技術や、基本的な検査、手術療法や化学療法、放射線療法を理解する。

II：行動目標 (SBOs:Specific Behavioral objectives)

A. 基本姿勢・態度 研修医手帳を参照

B. 診察法・検査・手技

①主な医療面接・基本的な身体診察法

○言葉遣いや家族背景などに注意しながら問診を行うことができる。

○周産期

- 1) 妊娠の確認ができる。問診や妊娠反応から妊娠の診断と超音波検査による正常妊娠か異所性妊娠の診断、多胎妊娠の診断ができる。
- 2) 異常妊娠の管理を行うことができる。例えば、妊娠悪阻、切迫流産・早産、多胎妊娠、子宮内胎児発育不全、妊娠高血圧症候群等の合併症妊娠の管理を行うことができる。
- 3) 正常分娩の管理を行うことができる。分娩の進行と分娩の介助、胎盤の娩出介助、膣および会陰裂傷の縫合を習得することができる。

○婦人科

- 1) 婦人科疾患の管理として、医療面接、身体診察及び問診ができる。また、指導医または上級医とともに検査方法、手術療法や化学療法、放射線療法の治療計画を立てることができる。

②主な基本的な臨床検査

- 1) 正常妊娠の妊婦健診として、問診と内診、超音波検査を行うことができる。
- 2) 腔鏡診、内診、超音波検査（経腹および経膈超音波検査）、子宮頸ガン検診（頸部細胞診）を行うことができる。

③主な基本的手技

・処置・手術・その他

- 1) 指導医または上級医のもと、正常分娩の管理として分娩の進行と分娩の介助、胎盤の娩出介助、膈および会陰裂傷の縫合を行うことができる。
- 2) 基本的な産婦人科手術として、骨盤内の解剖を理解すること。帝王切開や腹腔鏡下手術、単純子宮全摘術（腔式子宮全摘術、腹式子宮全摘術、全腹腔鏡下子宮全摘術）などの手順と助手ができる技術を習得することができる。

C. 主な症状・病態の経験

①周産期

正常妊娠、異常妊娠など

②婦人科

子宮筋腫、卵巣嚢腫、子宮癌、卵巣癌、骨盤内感染症、外因膈炎、性感染症、婦人科救急疾患など

III : 学習方法 (LS : Learning Strategy)

1) LS (方略) 1 : On-the-job training

■主な病棟業務

- ・主治医を含む指導医または上級医の指導のもと、OJT を中心とした診療に参加する。指導医または上級医とともに診断・治療にあたる。
- ・担当患者の医療面接、身体診察や検査立案を行い、診療録に記録する。
- ・内診係とともに分娩患者の分娩管理に携わる。
- ・分娩患者の退院診察も行い、産褥期の子宮や膈内の急激な変化を理解する。

■主な外来業務

- ・外来担当医とともに産科救急を含む急性腹症の診察を行う。
- ・妊婦健診を行う。

■補足

①健診・人間ドック

- ・医師とともに子宮頸部細胞診と内診の方法を習得する。
- ・経膈超音波検査を習得する。

②手術

- ・原則は助手として基本的な骨盤内の解剖を理解する。皮膚縫合やドレーンの留置処置を行う。

③分娩と手術が重なった場合は、分娩を優先する。

2) LS (方略) 2: カンファレンス・勉強会

①カンファレンス

- ・毎週木曜日に行っている周産期カンファレンスと手術症例カンファレンスに参加する。
- ・1回/月の抄読会に参加する。

3) LS (方略) 3: 学会・研究会・学術活動

- ・学術講演会や各種の院内研修（医療安全や感染対策など）に積極的に参加する。
- ・周産期、産婦人科疾患に対する講演会や研修会に積極的に参加して知識を深めるとともに、学会発表や症例報告論文を作成する能力を身に付ける。

○週間予定表

	月	火	水	木	金
午前	分娩 手術介助 外来及び病棟 業務	分娩 手術介助 外来及び病棟 業務	分娩 手術介助 外来及び病棟 業務	分娩 手術介助 外来及び病棟 業務	分娩 手術介助 外来及び病棟 業務
午後	分娩 手術介助 外来及び病棟 業務	分娩 手術介助 外来及び病棟 業務	分娩 手術介助 外来及び病棟 業務	分娩 手術介助 外来及び病棟 業務 周産期/手術 症例カンファ レンス	分娩 手術介助 外来及び病棟 業務

※当科の研修は、分娩を第一優先とする。

※分娩がない場合は、手術介助を行う。

※空き時間を利用し指導医または上級医の指導のもと、外来及び病棟回診業務を行う。

IV: 学習評価 (EV: Evaluation)

①研修終了後に指導医と面談（ヒアリング）

1) 指導医と面談し、研修での達成度を振り返り達成度の再確認を行う。

②PG-EPOCによる総合評価

1) 個々の診療記録と退院要約（サマリー）は、定期的に指導医の評価と承認を受ける。

※退院要約（サマリー）は、1 週間以内に記載すること。

- 2) 技能の評価として、会陰縫合や皮膚縫合を立ち会った医師が評価を行う。
- 3) ローテイト研修終了時に、PG-EPOC に診療経験にもとづく自己評価を行い、指導医による評価を受ける。
- 4) 診察態度や協調性について助産師や看護師及びメディカルスタッフ等による 360 度評価を行う。